



平成 27 年度 全国学力・学習状況調査結果分析報告書 (ガイドブック)

本年 4 月に実施された「平成 27 年度全国学力・学習状況調査」の結果が、8 月 25 日に文部科学省から公表されました。

本県における結果は、なお全国の平均正答率には及ばなかったものの、10 教科中 9 教科で**全国の平均正答率との差が前回より縮まり**、小中学校ともに改善の兆しが見られました。特に、小学校国語 B や中学校数学 A は、ほぼ全国の平均正答率の水準になったことをはじめ、**小学校では 4 教科で、全国の平均正答率との差が調査開始以来最も縮まる**など、前回からの変動において全国トップクラスの伸びも示しました。

また、**無解答率の状況**についても、前回と比べ、全国の平均無解答率との差が、**小中学校の全教科で大幅に改善**しました。

これらのことは、県・市町等教育委員会、学校、さらには、保護者、県民の皆様が連携し、それぞれの役割を果たすべく取り組んできたことや、各小中学校において、校長のリーダーシップのもと教職員が一丸となって、「わかる授業」や「個に応じた指導」を行ってきたことの結果であると考えます。あわせて、子どもたち一人ひとりにとっても、日頃子どもたちと接している教職員にとっても、「**やればできる**」ということを実感することにつながるものと考えます。

私たち教育に携わる全ての者は、「毎日が未来への分岐点」との認識のもとに、「**わかる喜びを実感できること**」を大切にしながら、子どもたちの能力を最大限引き出すよう取り組んでいきたいと考えています。

引き続き、学校・家庭・地域が一体となって県民総参加で三重の子どもたちの学力を育んでいただきますよう、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

～全ては「子どもたちの笑顔」のために～

平成 27 年 10 月
三重県教育委員会

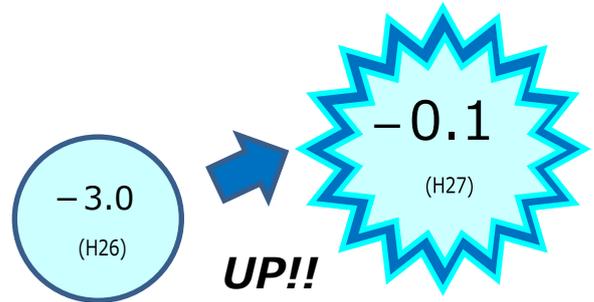
三重県全体概況（第1章）

教科に関する調査結果

ほぼ全ての教科において改善の兆しが見られます

昨年度大きな課題が見られた「小学校国語」や「小学校算数」を含め、10教科中9教科で**全国**の平均正答率との差が前回より縮まり、小中学校ともに改善の兆しが見られます。

特に、**小学校では4教科**で、全国の平均正答率との差が**調査開始以来最も縮まる**結果となりました。



【小学校国語 B 全国の平均正答率との差】

<平均無解答率について>

前回と比べ、全国の平均無解答率との差が、小中学校の全教科で改善し、小学校全教科を含む6教科で、全国との差が調査開始以来最も良好な水準となりました。さらに小中学校全てのA問題（主として「知識」に関する問題）を含む10教科中6教科で、全国平均より良好な結果となりました。

児童生徒質問紙調査結果

家で主体的な学習をしている子どもが増えています

テレビ等の視聴時間が減少するとともに、家庭での学習習慣について、主体的な学習（計画的な学習、予習・復習）を行っている児童生徒の割合が増加し、家庭での過ごし方に改善が見られます。

ただし、基本的な生活習慣や読書習慣、学習時間などには、あまり改善が見られないことに留意が必要です。

質問項目		平成21年度	平成26年度	平成27年度
家で、自分で 計画 を立てて勉強している	(小学校) 児童	51.5	59.4	60.5
	(中学校) 生徒	36.8	47.3	51.0
家で、学校の授業の 復習 をしている	(小学校) 児童	39.1	48.7	50.1
	(中学校) 生徒	33.7	45.5	48.9

学校質問紙調査結果

「目標の提示」と「振り返る活動」が定着しつつあります

校長のリーダーシップによる組織的・継続的な取組に注力してきたことにより、調査結果から、校長による授業の見回りや、教員による授業での「目標の提示」、「振り返る活動」については、一定の改善が見られ、意識が高まっていると考えられます。

しかし、**教員の意識と子どもの意識**との間に、なお相当程度の差があることから、今後、内容面の充実を図る必要があります。

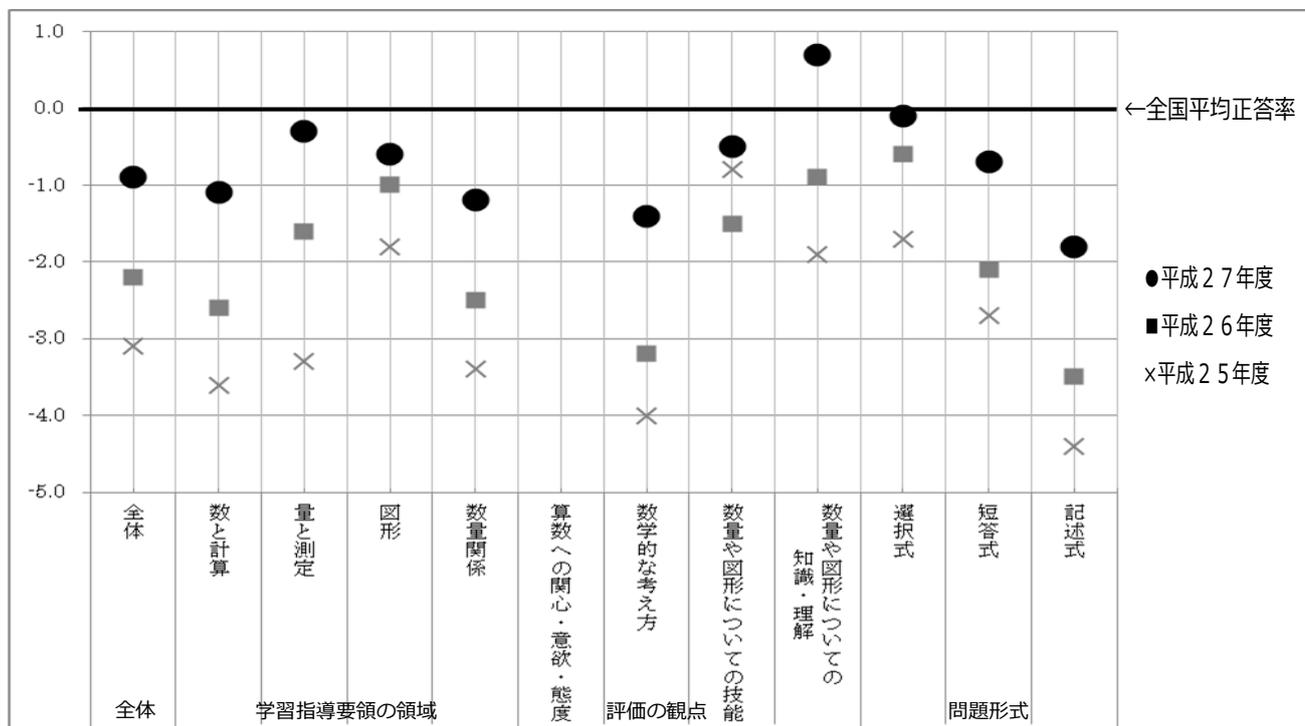
質問項目		平成26年度	平成27年度
目標の提示	小学校	91.3(75.7)	97.8(83.0)
	中学校	88.3(62.1)	87.6(75.5)
振り返る活動の設定	小学校	76.3(67.1)	89.9(71.4)
	中学校	84.5(51.4)	87.5(58.3)

※（ ）は児童生徒質問紙の回答

詳細分析（小学校）～教科に関する調査～（第2章）

小学校算数B

全ての領域、観点において、大きく改善が見られるものの、記述式になお課題が見られます



※該当の出題がない年度には印がありません。

「算数B」の記述式では、無解答率が全教科の全問題形式の中で最も高い結果でした。

しかし、児童質問紙では、決して途中であきらめた児童が多いわけではなく、解答意欲の問題ではありません。つまり、「算数B」の記述式の問題を解答できる学力を身につけることが課題であるということがわかります。

そこで、「算数B」の記述式の問題と関係の深い言語活動の状況を、学校質問紙での国語以外の教科における取組状況に関する、質問番号(31)(109)を見ると、「各教科等」で「国語科だけではなく」言語活動を「よく」行っている比率が全国よりも3%以上低い状況です。**算数における言語活動の充実**を図る必要があります。

<学校質問紙(31)>

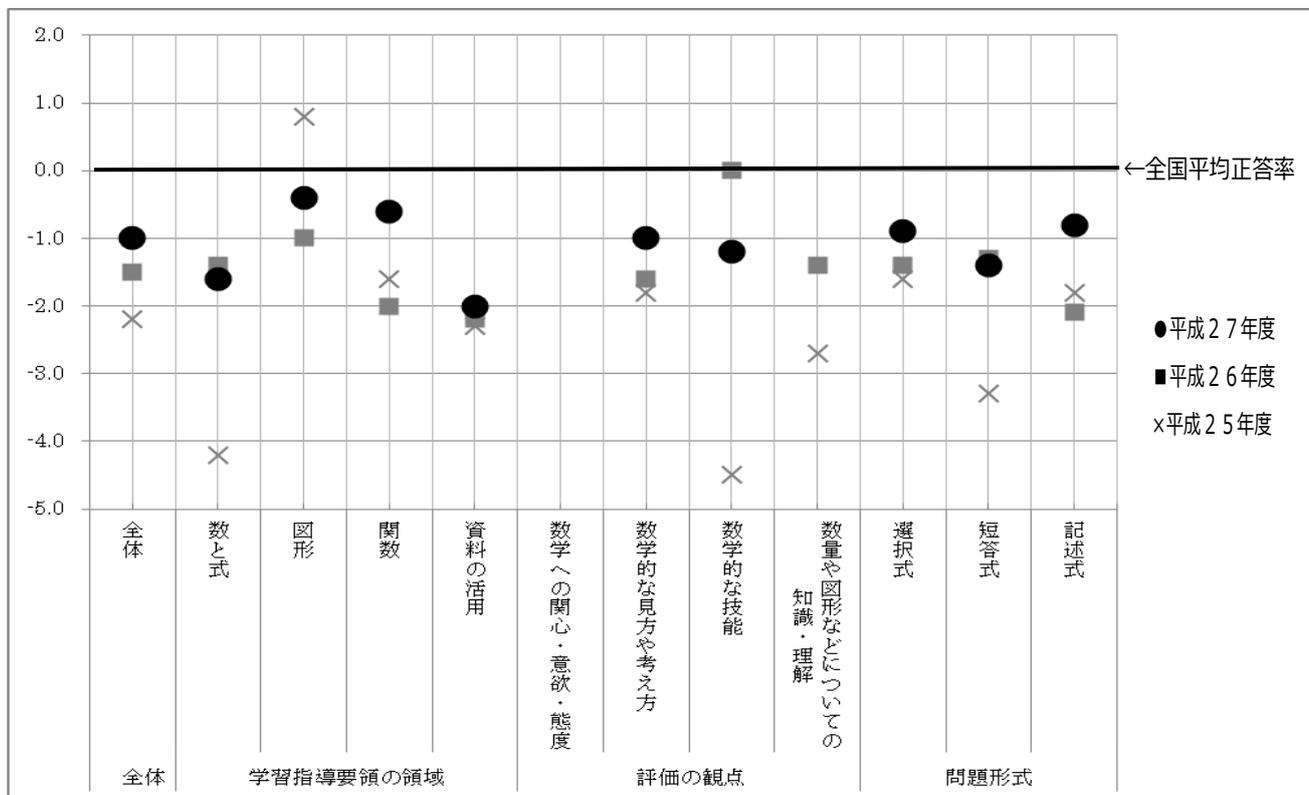
質問			よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	無回答
(31)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか	三重県	23.8	63.9	12.0	0.3	0.0
		全国	26.9	64.8	8.1	0.0	0.1
		差	-3.1	-0.9	3.9	0.3	-0.1

<学校質問紙(109)>

質問			よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	無回答
(109)	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか	三重県	30.5	59.9	9.6	0.0	0.0
		全国	34.4	57.2	8.2	0.1	0.1
		差	-3.9	2.7	1.4	-0.1	-0.1

詳細分析（中学校）～教科に関する調査～（第5章）

中学校数学B 「関数」の領域や記述式に改善が見られるものの、「資料の活用」の領域は全国との差も大きく、課題が見られます



※該当の出題がない年度には印がありません。

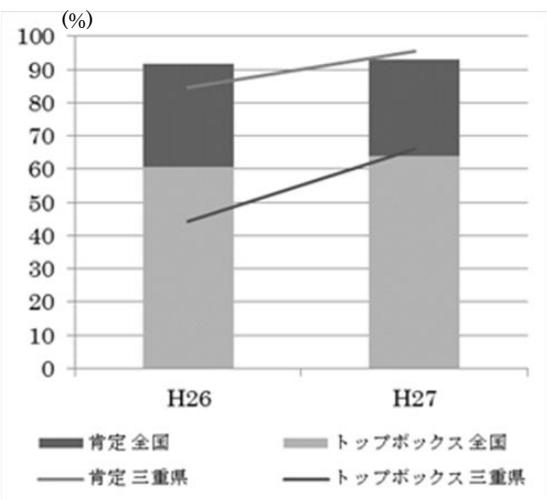
「資料の活用」において課題があると考えられる設問

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	三重県	全国	差
5(1)	1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答える（小学校の学習事項）	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	37.1	39.1	-2.0
5(2)	2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言い切れないと主張することもできる理由を、グラフを基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	21.3	23.3	-2.0

複数ステップで考えなければならない問題が苦手な状況にあります。結論だけでなく、プロセスや理由・根拠を生徒に説明させ、学級で共有するような言語活動を日常的に行っていくことで、根拠を考えながら結論を導く習慣や、思考のプロセスを組み立てる力が身についていきます。

なお、中学校範囲の学習事項の定着はもちろん重要ですが、思考の基礎となるような小学校の学習事項も折に触れて復習する機会をつくるのが大切です。みえスタディ・チェックやワークシートは小学校のものも公開していますので、中学校でも活用し、考える力が身についているか振り返り、確認することも大切です。

小学校 校長による授業の見回りが、組織的な取組の第一歩です



学校を取り巻く課題が複雑化してきており、一人の教職員だけでは解決できない状況があります。そのような中で「学校全体」で課題を共有し、教職員がチームとしてその課題を解決していくことはとても重要なことです。

質問番号（112）「校長の授業の見回りについて」は、「ほぼ毎日」見て回ると回答した割合が大きく上昇しています。

もっとも、全国の小学校では、実施頻度に応じて、全教科で平均正答率が高い傾向があります。三重県では、実施頻度は大幅に改善したものの、平均正答率との関連は必ずしも大きくないことから、今後質的充実を図ることが必要で

す。例えば、指導計画・指導案が見通しを持って立てられているか、指導計画どおりの授業が行われているか、学習規律、目標・振り返り、板書、説明・指示・発問等の授業マネジメントが適切かなどを自らの目で見回り、適宜教職員とコミュニケーションを取りながら、指導・助言することが大切です。

※「肯定」「トップボックス」…ここでは、（選択肢1の割合+選択肢2の割合）を「肯定」、（選択肢1のみの割合）を「トップボックス」といいます。

中学校 学力が向上した学校において共通していることは？

平成 21 年度から平成 27 年度までの経年で、学力が著しく向上した学校と学力の向上が難しかった学校との学校質問紙の結果を比較し、その傾向や効果的な取組について分析を行いました。

番号	質問項目 (Aの経年差が5%以上改善した項目を抽出)	向上著しかった学校群 (A)			難しかった学校群 (B)			A-B
		H21	H27	差	H21	H27	差	H27
(39)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか	60.0%	90.0%	30.0%	38.9%	44.4%	5.6%	45.6%
(87)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	70.0%	100.0%	30.0%	66.7%	77.8%	11.1%	22.2%
(110)	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか（週2～3回程度以上）	80.0%	100.0%	20.0%	61.1%	77.8%	16.7%	22.2%
(67)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	50.0%	70.0%	20.0%	44.4%	50.0%	5.6%	20.0%
(82)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	0.0%	20.0%	20.0%	16.7%	0.0%	-16.7%	20.0%
(24)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか（週に複数回以上）	80.0%	90.0%	10.0%	94.4%	72.2%	-22.2%	17.8%
(32)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	90.0%	100.0%	10.0%	83.3%	83.3%	0.0%	16.7%
(65)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	80.0%	90.0%	10.0%	77.8%	77.8%	0.0%	12.2%

これらの項目は、授業における生徒の主体的な学習の実現に向けて、取り組んでいく優先課題の設定の参考になります。自校の状況、生徒の状況に応じて、取組の内容を選択し、組織的・継続的な取組とすることが大切です。

詳細分析（小学校）～児童質問紙調査～（第4章）

児童生徒質問紙において、肯定的な回答ほど平均正答率が高い傾向が見られる項目をピックアップしました。

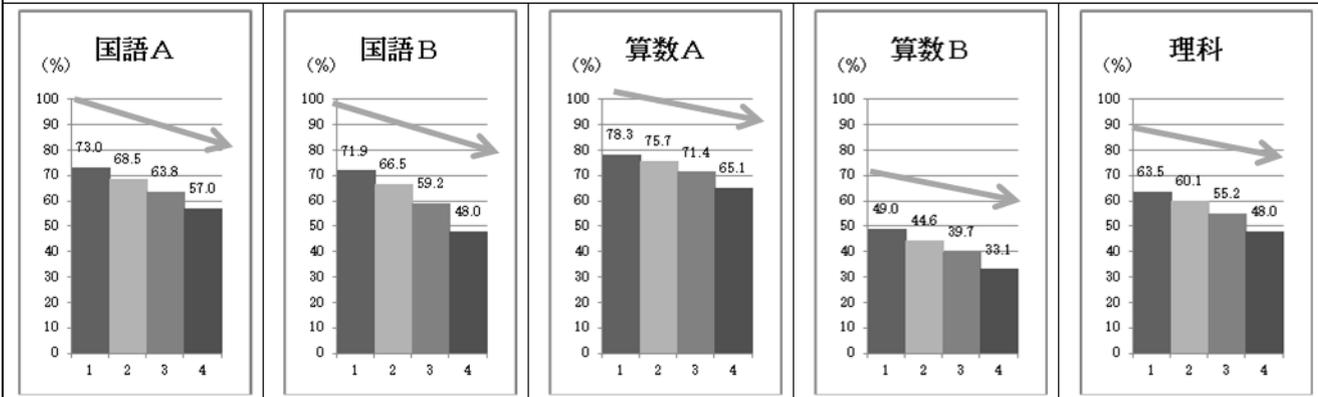
小学校 「理由がわかるように書く」ということを常に意識できるような指導が大切です

質問番号(55)は、「判断してその理由を書くような問題」を解決できるような学習・練習ができてきているかを聞いているもので、全教科に関連があり、特に「国語B」との関連が顕著に出ています。

理由などを挙げて書く場合、「なぜかという～」、「その理由は～」、「～のためである」などの表現についても指導する必要があります。また、普段から、**理由や事例などを挙げながら、筋道を立てて話す**ことを意識させることも大切です。

(55) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)

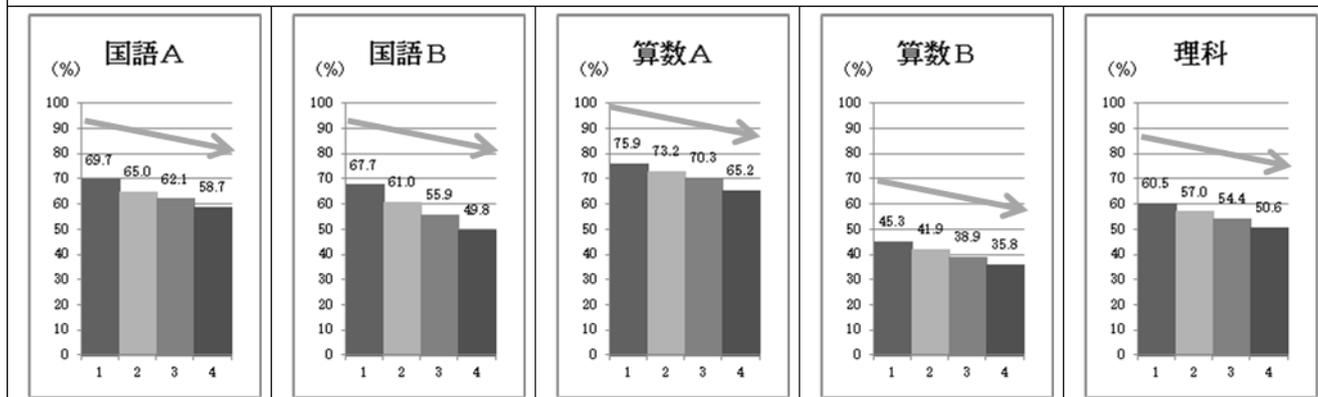


小学校 規範意識は「国語B」と関連が見られます

質問番号(33)<(35)、(34) ※分析報告書に掲載>は、いずれも「国語B」との関連が最も顕著です。**論理的に考え、相手の言葉を受け止め、伝え合う言葉をもつことが規範意識にも影響しています。**

(33) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



※【参考】児童質問紙(35) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

児童質問紙(34) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

詳細分析（小中学校）～児童生徒質問紙調査～（第4章・第7章）

小中学校

- ・ 土日も含めた家庭学習促進の働きかけをしましょう
- ・ 各家庭でスマホルールづくりの会話をしましょう

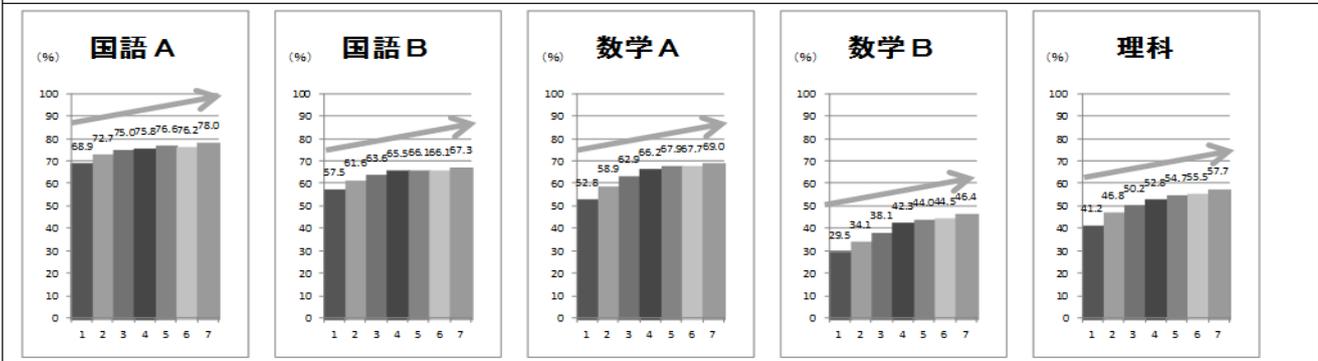
特に中学校では、**スマホの使用時間の増加**が全国にもまして著しく、このことが**家庭での学習時間にも影響**していると考えられます。

家庭での時間の使い方は学校だけでは解決できない課題です。家庭やPTA、校長会などへの協力を求めるとともに、協力を求める際にも、自治体や学校が規則を決めて「守らせる」というやり方だけではなく、親子が話し合って自らルールをつくり、それを守る、という方法が増えてきています。

【中学校】

(12) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）

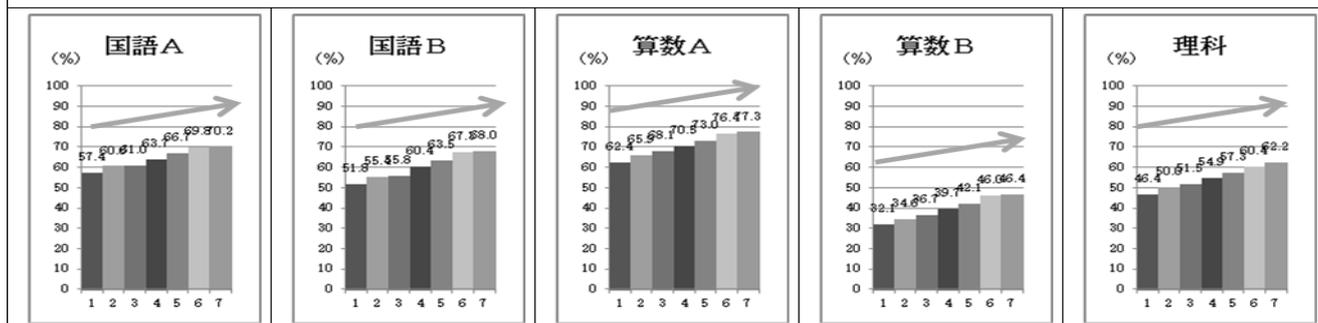
- (1) 4時間以上 (2) 3時間以上、4時間より少ない (3) 2時間以上、3時間より少ない
 (4) 1時間以上、2時間より少ない (5) 30分以上、1時間より少ない (6) 30分より少ない
 (7) 携帯電話やスマートフォンを持っていない)



【小学校】

(12) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）

- (1) 4時間以上 (2) 3時間以上、4時間より少ない (3) 2時間以上、3時間より少ない (4) 1時間以上、2時間より少ない (5) 30分以上、1時間より少ない (6) 30分より少ない (7) 携帯電話やスマートフォンを持っていない)



【児童生徒の学習時間の経年比較】

質問項目		H21	H21→H26	H26	H26→H27	H27	H26→H27	H21→H27		
小学校	平日の学習時間（1時間以上）	三重県	55.4	↗	59.4	↘	58.4	-	↗	+
		全国	57.2		62.0		62.7	C	↘	C
	全国との差		-1.8	↘	-2.6	↘	-4.3		↘	
	休みの日の学習時間（3時間以上）	三重県	8.8	↗	9.0	→	9.0		↗	+
全国		11.3		11.5		11.9	C	↘	C	
全国との差		-2.5	→	-2.5	↘	-2.9		↘		
中学校	平日の学習時間（1時間以上）	三重県	64.6	↘	64.4	↗	66.5	+	↗	+
		全国	65.3		67.9		69.0	A	↘	C
	全国との差		-0.7	↘	-3.5	↗	-2.5		↘	
	休みの日の学習時間（3時間以上）	三重県	11.2	↗	12.6	↗	12.9	+	↗	+
全国		15.4		16.9		17.7	C	↘	C	
全国との差		-4.2	↘	-4.3	↘	-4.8		↘		

県内の取組事例（第8章）

伊賀市立柘植小学校

進路保障をめざすキャリア教育の充実

十年ほど前、修学旅行で初めてETCを見た児童、臨海学校で初めて海の水が塩辛いと体感した児童、「将来の夢はフリーター」と近所のお兄さんをモデルとして見ていた児童、そういう子どもたちがいました。将来のビジョンも広がらない中で、学力も二極化し、授業も進めにくい状況に陥っていました。

そのころから、子どもたちが学校教育の中で見聞を広め、さまざまな経験ができるようにと取り組み始めました。

取組② 一枚文集

柘植小学校の教育の土台である「なかまづくり・学級集団づくり」のために重要な要素となっているのが、「一枚文集」です。児童は毎日日記を付けています。担任は毎日の日記を見て、これはみんなと共有したい、という題材を選び、給食後の時間に児童と話をしながら、思い出し直しをさせ、その対話の中で文章を膨らませ、推敲をさせ、発表文に導いていきます。できた作文は帰りの会で読み合います。

ここで大事にしていることは、**教員と児童、児童同士の距離が近くなるような題材選び**です。児童同士がわかりあえるようなこと、失敗のエピソードなどを共有することで、距離が近づいていきます。

こうしてできた作文は、「一枚文集」として年間70号以上を発行します。

日常の児童同士の会話以上にお互いのことがわかることによって、よりよい学級集団づくりができていきます。

取組⑥ 学力向上のために

各学年、小テストなどで満点を取れなかった児童は、放課後、教員が徹底して個別指導を行っています。**100点になるまで繰り返し指導し、基礎基本の徹底に注力**しています。夏季休業中も半期60枚の国算を中心としたプリントを準備しており、プールの後で指導しています。

こういう指導に児童ががんばってついてくるのも、前述のような活動を通じて、教員と児童の、また児童同士の関係性ができているからです。

また、家庭学習強調月間や親子読書強調月間を設定し、家庭との連携も強化しています。

ほかにも、漢字検定への取組や新聞コラムの書き写しなど、さまざまな活動を行っています。

【「分析報告書」には、以下のような事例もあります。】

- 「-1歳から15歳までの『16年一貫教育の実現』」（東員町教育委員会）
キーワード：幼保・小中学校一体、3感教育
- 「学校が動きやすいようにバックアップ」（松阪市教育委員会）
キーワード：市統一の「課題把握シート」、教員研修の充実、5つのチャレンジ
- 「『チーム笹川東小学校』の力を発揮」（四日市市立笹川東小学校）
キーワード：焦点化した校内研修で全教職員が共通理解、3つのコースでの習熟度別少人数指導、
家庭・地域との連携
- 「『まなびばセット』の活用で授業が変わった」（鈴鹿市立稲生小学校）
キーワード：「まなびばセット」の活用で指導法に変化、教員研修の充実、自主的に取り組める教育環境
- 「生徒の成長を目指した、落ち着いた学校づくり」（四日市市立常磐中学校）
キーワード：全教職員の意欲を高める学校環境づくり、保護者・地域との連携
- 「居心地のよい落ち着いた集団づくりとともに行事を通した自己肯定感の育成」（紀北町立紀北中学校）
キーワード：読書習慣、自己肯定感、振り返りシート

県外の実践事例（第9章）

中学校

振り返りの時間と家庭学習の連動

背景

家庭学習習慣の定着が長年の課題
自分で計画を立てて実行するのが苦手

取組のポイント

① 6時限目終了後に1日の授業の振り返りの時間（15分）を設定

6時限目が終わると、その日の授業で使った教科書やノート、ワークを全て机の上に出し、生徒が1日の授業を振り返り、分かったこと、分からなかったことを整理します。帰宅後、いつ、何を学習するのかを決めて、教科・内容・教材・時間をノートに書き込みます。

15分の時間のうち、残った時間は自学をしたり、その日に授業を行った、全学級を巡回する教科担当に質問したりします。その後学活を終えて部活、下校します。

これまでは部活で疲れて帰って、何をやるか考える力も残っていませんでしたが、**やることはすでに決めているので行動に移りやすくなりました。**

朝の読書の静けさで始まり、振り返りの時間の静けさで終わります。

この15分は、登校時間を5分早め、給食の時間を5分削り、部活動を5分遅らせてねん出しました。学校全体で共通理解がなければ実現できませんでした。

② 授業ごとのめあてと振り返り

1日の振り返りが短時間で、しっかりできるように、どの教科でも、毎時間、授業の冒頭で本時の「めあて」を明確にし、最後の5分間で「振り返り」をします。方法は教員によって異なりますが、見通しを持って学習できるように、単元ごとの「学習のめあて」の一覧を示している教科もあります。

成果

学習習慣の定着・家庭学習時間の増加

【「分析報告書」には、以下のような事例もあります。】

- 小学校
 - ・国語での論理的に考える力の育成
 - ・算数での学び合い活動を通して思考力・表現力の育成
 - ・思考の過程を大切に
- 中学校
 - ・「根拠」に基づき、論理的に考え、表現する力を養う
- 小中学校
 - ・少人数指導

学力向上に向けた施策取組結果等の状況（第10章）

「みえの学力向上県民運動」

どこまで浸透したかな？（小学校）

「児童質問紙・学校質問紙」

※「みえの学力向上県民運動」開始（H24）以前の直近の悉皆調査（H21）、H26及びH27の調査を比較。
 ※矢印は、三重県の割合の変位、及び「全国との差」の変位を表し、↑は「改善・上昇」を、→は「変動なし」を、↓は「下降」を表す。また、児童質問紙①、②、③については、↓は「改善・上昇」を、↑は「下降」を表す。
 ※A・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」を、Bは「変動なし」を、Cは「下降」を表す。
 ※+・-は、三重県の割合の変位を表し、+は「改善・上昇」を、-は「下降」を表す。
 ※○は、上記に示した「A、B、C」及び「+、-」の数値が±5ポイント以上離れていることを表す。
 ※網掛けは、H21の質問紙に同じ質問項目がなかったもの。

■ ■ 小学校 ■ ■ 【上段①～⑳は児童質問紙 下段①～④は学校質問紙】

質問項目		H 2 1	H 2 1→H 2 6	H 2 6	H 2 6→H 2 7	H 2 7	H 2 6→H 2 7	H 2 1→H 2 7
① 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。将来的な夢や目標を持ち、難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する	三重県			80.6	↑	81.0	+	
	全国			80.9		81.5		
	全国との差			-0.3	↓	-0.5	C	
② 自分には、よいところがあると思う	三重県	75.1	↑	75.7	↓	75.1	-	→
	全国	74.6		76.1		76.4		C
	全国との差	0.5	↓	-0.4	↓	-1.3		↓
③ 基本的な生活習慣を身につけた子どもたちの割合（朝食を毎日食べている・毎日、同じくらの時刻に起床就寝している）	三重県	87.2	↑	88.3	→	88.3		↑
	全国	87.1		88.7		88.7		C
	全国との差	0.1	↓	-0.4	→	-0.4	B	↓
④ 家で、自分で計画を立てて勉強している	三重県	51.5	↑	59.4	↑	60.5	+	↑
	全国	54.7		61.0		62.8		A
	全国との差	-3.2	↑	-1.6	↓	-2.3	C	↑
⑤ 家で、学校の宿題をしている	三重県	96.1	↑	97.3	→	97.3		↑
	全国	95.5		96.5		96.8		C
	全国との差	0.6	↑	0.8	↓	0.5		↓
⑥ 家で、学校の授業の予習をしている	三重県	33.9	↑	42.0	→	42.0		↑
	全国	37.5		43.2		43.4		A
	全国との差	-3.6	↑	-1.2	↓	-1.4	C	↑
⑦ 家で、学校の授業の復習をしている	三重県	39.1	↑	48.7	↑	50.1	+	↑
	全国	46.0		54.0		54.5		A
	全国との差	-6.9	↑	-5.3	↑	-4.4	A	↑
⑧ 学校図書館・室や地域の図書館の利用（月1回以上）	三重県	39.8	↑	42.1	↓	40.0	-	↑
	全国	42.5		42.9		40.7		A
	全国との差	-2.7	↑	-0.8	↑	-0.7	A	↑
⑨ 家の人の学校行事への参観等	三重県			97.4	↑	97.6	+	
	全国			96.5		96.6		
	全国との差			0.9	↑	1.0	A	
⑩ 地域行事への参加	三重県	65.7	↑	73.2	↓	72.0	-	↑
	全国	62.4		68.0		66.9		A
	全国との差	3.3	↑	5.2	↓	5.1	C	↑
⑪ 平日のテレビ等の視聴（3時間以上）	三重県	47.1	↓	38.4	↓	35.8	+	↓
	全国	45.7		38.0		36.1		A
	全国との差	1.4	↓	0.4	↓	-0.3	A	↓
⑫ 平日のテレビゲーム等使用時間（スマホのゲームを含む）（3時間以上）	三重県	13.0	↑	18.8	↓	18.2	+	↑
	全国	11.6		17.0		17.0		A
	全国との差	1.4	↑	1.8	↓	1.2	A	↑
⑬ 平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用（3時間以上）	三重県	4.0	↑	5.6	↑	6.3	-	↑
	全国	3.4		5.0		5.7		B
	全国との差	0.6	→	0.6	→	0.6	B	→
⑭ 平日の学習時間（1時間以上）	三重県	55.4	↑	59.4	↓	58.4	-	↑
	全国	57.2		62.0		62.7		C
	全国との差	-1.8	↓	-2.6	↓	-4.3		↓
⑮ 休みの日の学習時間（3時間以上）	三重県	8.8	↑	9.0	→	9.0		↑
	全国	11.3		11.5		11.9		C
	全国との差	-2.5	→	-2.5	↓	-2.9		↓
⑯ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	三重県	94.7	↑	96.3	↑	96.5	+	↑
	全国	94.9		96.4		96.2		A
	全国との差	-0.2	↑	-0.1	↑	0.3	A	↑
⑰ 「総合的な学習の時間」での自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動	三重県			53.3	↑	54.5	+	
	全国			63.8		65.8		C
	全国との差			-10.5	↓	-11.3		
⑱ 授業のはじめに目標（めあて・ねらい）の提示	三重県			75.7	↑	83.0	+	
	全国			82.0		86.3		A
	全国との差			-6.3	↑	-3.3	A	
⑲ 授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県			67.1	↑	71.4	+	
	全国			71.9		75.3		A
	全国との差			-4.8	↑	-3.9	A	
⑳ 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする	三重県	52.0	↑	56.6	↑	60.3	+	↑
	全国	56.0		61.4		65.2		C
	全国との差	-4.0	↓	-4.8	↓	-4.9		↓

質問項目		H 2 1	H 2 1→H 2 6	H 2 6	H 2 6→H 2 7	H 2 7	H 2 6→H 2 7	H 2 1→H 2 7
① 前年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用	三重県	72.0	↑	92.9	↑	98.1	+	↑
	全国	83.5		93.6		95.8		A
	全国との差	-11.5	↑	-0.7	↑	2.3	A	↑
② 対象児童に対して、前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に実施（学期に数回以上）	三重県	69.8	↑	77.2	↑	81.8	+	↑
	全国	77.8		80.5		82.6		A
	全国との差	-8.0	↑	-3.3	↑	-0.8	A	↑
③ 対象児童に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施（「週に2回以上」）	三重県	15.9	↑	18.9	↑	22.7	+	↑
	全国	14.2		17.5		17.7		A
	全国との差	1.7	↓	1.4	↑	5.0		↑
④ 校長の授業の見回り（週に2日以上）	三重県	65.1	↑	84.5	↑	95.4	+	↑
	全国	81.5		91.6		93.1		A
	全国との差	-16.4	↑	-7.1	↑	2.3	A	↑

学力向上に向けた施策取組結果等の状況（第10章）

「みえの学力向上県民運動」

どこまで浸透したかな？（中学校）

《生徒質問紙・学校質問紙》

※「みえの学力向上県民運動」開始（H24）以前の直近の悉皆調査（H21）、H26及びH27の調査を比較。
 ※矢印は、三重県の割合の変位、及び「全国との差」の変位を表し、↑は「改善・上昇」を、→は「変動なし」を、↓は「下降」を表す。また、児童質問紙①、②、③については、↓は「改善・上昇」を、↑は「下降」を表す。
 ※A・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」を、Bは「変動なし」を、Cは「下降」を表す。
 ※+・-は、三重県の割合の変位を表し、+は「改善・上昇」を、-は「下降」を表す。
 ※○は、上記に示した「A、B、C」及び「+、-」の数値が±5ポイント以上離れていることを表す。
 ※網掛けは、H21の質問紙に同じ質問項目がなかったもの。

■ ■ 中学校 ■ ■ 【上段①～⑳は生徒質問紙 下段①～④は学校質問紙】

質問項目		H 2 1	H21→H26	H 2 6	H26→H27	H 2 7	H26→H27	H 2 1 → H 2 7
① 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。将来の夢や目標を持ち、難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する	三重県			70.6	↑	70.7	+	
	全国			69.7		70.3	C	
	全国との差			0.9	↓	0.4		
② 自分には、よいところがあると思う	三重県	63.0	↑	69.1	↑	69.4	+	↑
	全国	61.2		67.1		68.1	C	C
	全国との差	1.8	↑	2.0	↓	1.3		↓
③ 基本的な生活習慣を身につけた子どもたちの割合（朝食を毎日食べている・毎日、同じくらの時刻に起床就寝している）	三重県	84.0	↑	86.9	↓	86.8	-	↑
	全国	84.2		86.6		86.9	C	A
	全国との差	-0.2	↑	0.3	↓	-0.1		↑
④ 家で、自分で計画を立てて勉強している	三重県	36.8	↑	47.3	↑	51.0	+	↑
	全国	37.9		46.6		48.8	A	A
	全国との差	-1.1	↑	0.7	↑	2.2		↑
⑤ 家で、学校の宿題をしている	三重県	80.9	↑	87.7	↑	90.9	+	↑
	全国	83.0		88.2		89.3	A	A
	全国との差	-2.1	↑	-0.5	↑	1.6		↑
⑥ 家で、学校の授業の予習をしている	三重県	29.0	↑	34.6	↑	37.4	+	↑
	全国	29.5		34.2		35.3	A	A
	全国との差	-0.5	↑	0.4	↑	2.1		↑
⑦ 家で、学校の授業の復習をしている	三重県	33.7	↑	45.5	↑	48.9	+	↑
	全国	40.5		50.4		52.0	A	A
	全国との差	-6.8	↑	-4.9	↑	-3.1		↑
⑧ 学校図書館・室や地域の図書館の利用（月1回以上）	三重県	17.5	↑	18.4	↓	17.4	-	↓
	全国	18.4		18.9		19.6	C	C
	全国との差	-0.9	↑	-0.5	↓	-2.2		↓
⑨ 家の人の学校行事への参観等	三重県			78.8	↑	78.9	+	
	全国			83.1		83.4	C	
	全国との差			-4.3	↓	-4.5		
⑩ 地域行事への参加	三重県	43.6	↑	50.4	↑	50.7	+	↑
	全国	37.8		43.5		44.8	C	A
	全国との差	5.8	↑	6.9	↓	5.9		↑
⑪ 平日のテレビ等の視聴（3時間以上）	三重県	42.1	↓	35.2	↓	32.4	+	↓
	全国	38.0		31.5		30.5	A	A
	全国との差	4.1	↓	3.7	↓	1.9		↓
⑫ 平日のテレビゲーム等使用時間（スマホのゲームを含む）（3時間以上）	三重県	13.1	↑	24.0	↓	22.9	+	↑
	全国	10.4		20.3		20.5	A	A
	全国との差	2.7	↑	3.7	↓	2.4		↓
⑬ 平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用（3時間以上）	三重県	10.2	↑	24.5	↓	21.5	+	↑
	全国	8.6		19.8		18.2	A	C
	全国との差	1.6	↑	4.7	↓	3.3		↑
⑭ 平日の学習時間（1時間以上）	三重県	64.6	↓	64.4	↑	66.5	+	↑
	全国	65.3		67.9		69.0	A	C
	全国との差	-0.7	↓	-3.5	↑	-2.5		↓
⑮ 休みの日の学習時間（3時間以上）	三重県	11.2	↑	12.6	↑	12.9	+	↑
	全国	15.4		16.9		17.7	C	C
	全国との差	-4.2	↓	-4.3	↓	-4.8		↓
⑯ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	三重県	89.8	↑	92.8	↑	93.9	+	↑
	全国	90.3		93.4		93.7	A	A
	全国との差	-0.5	↓	-0.6	↑	0.2		↑
⑰ 「総合的な学習の時間」での自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動	三重県			46.2	↑	48.9	+	
	全国			54.8		58.0	C	
	全国との差			-8.6	↓	-9.1		
⑱ 授業のはじめに目標（めあて・ねらい）の提示	三重県			62.1	↑	75.5	+	
	全国			71.5		79.7	(A)	
	全国との差			-9.4	↑	-4.2		
⑲ 授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県			51.4	↑	58.3	+	
	全国			53.3		59.3	A	
	全国との差			-1.9	↑	-1.0		
⑳ 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする	三重県	39.6	↑	53.2	↑	55.1	+	↑
	全国	41.8		56.1		59.2	C	C
	全国との差	-2.2	↓	-2.9	↓	-4.1		↓

質問項目		H 2 1	H21→H26	H 2 6	H26→H27	H 2 7	H26→H27	H 2 1 → H 2 7
① 前年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用	三重県	71.5	↑	91.4	↑	94.4	+	↑
	全国	78.7		90.4		93.2	A	(A)
	全国との差	-7.2	↑	1.0	↑	1.2		↑
② 対象生徒に対して、前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に実施（学期に数回以上）	三重県	35.2	↑	39.5	↑	44.7	+	↑
	全国	47.6		42.2		44.9	A	(A)
	全国との差	-12.4	↑	-2.7	↑	-0.2		↑
③ 対象生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施（「週に2回以上）	三重県	12.1	↓	11.8	↑	13.7	+	↑
	全国	13.6		14.1		14.9	A	A
	全国との差	-1.5	↓	-2.3	↑	-1.2		↑
④ 校長の授業の見回り（週に2日以上）	三重県	53.3	↑	69.2	↑	81.4	+	↑
	全国	68.3		79.3		81.4	(A)	(A)
	全国との差	-15.0	↑	-10.1	↑	0.0		↑

県教育委員会による今後の取組

子どもたちがわかる喜びを実感するために、これまで以上に創意工夫した取組を進めてまいります

1 これまでの取組の徹底

- ① 全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットを活用した授業改善、授業研究等の組織的な取組の徹底
【具体的な取組】
 - ・全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック実施後に自校採点研修会実施
 - ・学力向上に特化した校内研修の支援
- ② 県指導主事等による学力向上に向けた効果的な取組の周知・徹底
【具体的な取組】
 - ・県教育委員会の横断的な取組としての県指導主事・研修主事等の学校訪問
 - ・小中学校長研修会の開催
 - ・学力向上のための情報発信
- ③ 家庭での生活習慣・読書習慣の確立
【具体的な取組】
 - ・県PTA連合会と連携した生活習慣・読書習慣「チェックシート」の活用の促進

2 県内外の先進校視察を踏まえた有効な取組

- 【具体的な取組】
- ・全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの結果に見られる課題に対応したワークシートの速やかな作成・配信
 - ・学力向上に向けた効果的な授業スタイル、ノート指導、宿題の出し方等の整理・検討
 - ・国の調査官を招いての研修会等の開催

3 地域とともにある学校づくりの促進

- ① コミュニティ・スクール（CS）、学校支援地域本部等の取組の充実・拡大
【具体的な取組】
 - ・CSに向けた段階的な取組も三重県型CSとして積極的に支援
 - ・地域未来塾等を活用した学習支援を促進
- ② 学校からの積極的な情報発信
【具体的な取組】
 - ・保護者・地域の学校教育への理解・協力を得るために、調査結果等の情報共有を促進

4 教育環境の改善

- 【具体的な取組】
- ・少人数指導のための教員定数の維持及び配置の工夫
 - ・小規模な市町等教育委員会に対する支援
 - ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の活用の充実
 - ・子ども支援ネットワークモデル中学校区支援（毎年10校区程度を指定）

等

県教育委員会では、「毎日が未来への分岐点」との認識のもと、子どもたちが「やればできる」と実感できる達成感ある取組を市町等教育委員会、学校とこれまで以上に連携し進めてまいります

各市町等別の質問紙調査（第12章）

「みえの学力向上県民運動」主な関連指標（市町別の経年比較） 等